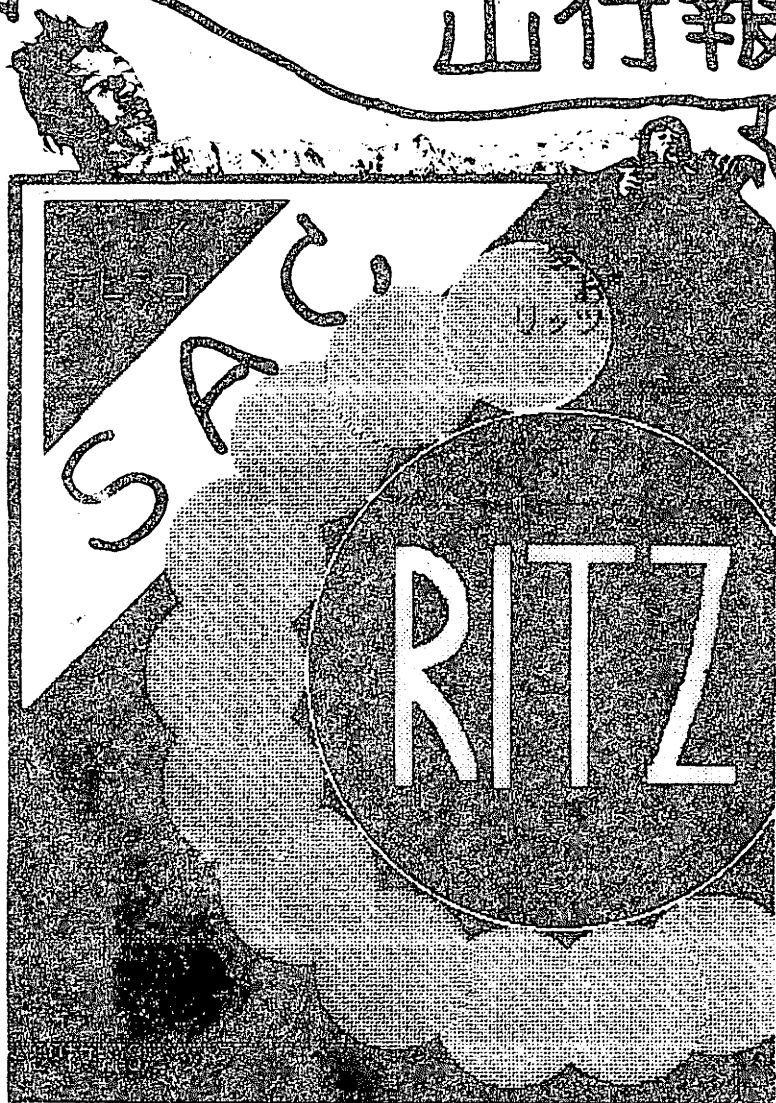


96年度 信州大学

秋山・プル冬・冬合宿

山行報告書



たーん

レーションとしても
愛されるリッツ♡

信州大学 山岳会

もくじ

$11/2 \sim 11/5$ 谷川岳 - 倉沢 CL 原田他 5名 ... 1

$11/15$ 白馬剱温泉 ~ 白馬岳 CL 堺 他 5名 ... 2

$11/3 \sim 11/4$ 谷川岳 - 倉沢 CL 伊藤他 2名 ... 3

$12/14 \sim 12/15$ 北アノス 徳本山寺
剱霞沢岳 CL 伊藤 他 4名 ... 4

$12/18$ ハケ岳 赤岳 CL 花谷 他 1名 ... 5

$12/15 \sim 12/16$ ハケ岳 西面 CL 山内 他 2名 ... 5

$11/30 \sim 12/5$ フル冬合宿 ----- 6

$12/23 \sim 1/2$ 冬合宿 ----- 22

中止になった山行

- ① あなたが「本等嫌」でいることが、
あなたがあなたのまわりの人にできる最大の貢献。

② 圓形と麻痺がうつるように。三ヶ峠^機 だてうつるんてい。

谷川岳 - 倉沢 1996 1/2 ~ 1/5 (3+1)

XM¹¹-

はらだり²⁴ (CL), 山内哲文¹⁴, 麦谷永郷¹⁵

中島辰哉¹⁴, 川井純¹⁴, 平松由布子¹⁴

(山内, 川井, 平松 11-11-11 は 1/4 のみ)

・ はらだ, 麦谷, 中島 11-11-11 の記録 (S) ... START (A) ... ARRIVE

1/1 松本 7:30 (S) III 14:00 (A) 土合駅 14:10 (S) ~ 15:20 (A) - 倉沢 出合 BC

1/2 起床 5:00 雨のため 池瀬

1/3 起床 5:00 BC 6:05 (S) ~ 8:50 (A) 取り付き 9:10 (S) ~ (南稜¹¹⁻¹¹) ~ 12:20 (A) 終

終了点 12:40 (S) ~ 16:50 (A) 茂倉岳 ~ 18:05 肩の小屋

南稜は千ムニ一部が少しぬれていてIT7が以外ほども
易しい。三人とももの足りなくて縦走して帰ることに全案一
致で決定。ニ水が甘かった。尾根に出たときも思ったより寒く
出た後もガイル必要箇所があり時間をとられた。

1/4 起床 5:00 肩の小屋 5:50 (S) ~ 8:00 (A) BC

3日も - 倉沢 に入っていて 1本しか登れなかったのはくやしい。
しかしこれが2年の限界なのだと感じた。再生を2人おぼる時は
慎重にならざるをえない。無事故はあくまで大前提である。

(記: はらだり¹¹⁻¹¹⁻¹¹)

谷川岳 鳥帽子沢奥壁 南稜ルート 山内、平松、川井、1/4

1/3 松本7:30 = - 倉沢出合 11:00 ころ 車の中で知る。

1/4 6:30 O 出合巻。 — 9:25 O テールリッジとトリフキ — 10:25 南稜登はん
O 開始
(7P) 13:25 終了 O — 13:50 懸垂下降 (5P) — 15:30 南稜下天 — 17:50 出合巻。

トリフキまで。おやじに2度たまたま2回道をまらかえさる。南稜の岩登りはかんたんで快適。帰りのテールリッジがこゆい。サイルをはずす。出合についた時はまくらだったか。リょうすけたるか。シチューをつくっててくれた。松本までの車の運転はねむくてしにそうだった。(山内)

1/ 白馬。 也り温泉 ~ 白馬岳

L. 堀. 他5名



③ いつも「不機嫌」でいたら、馬鹿にされるんじやないかって?

そいうこともあるかもしない。

でも「不機嫌」叫ぶといい。



3NOV・06:00一の倉出合T, S

・右岸を高巻きすぎ、悪い草付きより25m懸垂。僅かに残る留根へクライム
ダウン

07:55懸垂地点(テールリッジ末端へ) 残留有り

・亮介パーティと合流

08:00テールリッジ

08:30取り付き

~9:00登攀開始

1p40m

2p45m ii段とあるが、iv級ぐらいのところ有り

3p15mチムニー直下

4p25mチムニー左のフェースが悪い。前日までの大雨で濡れている。

5p6p ルート図通り

7p8p ii~iii級の草付き

13:00衛立の頭

・ここから、コンテ、肩がらみによるスタカットを多用し、烏帽子の頭へ。とにかく悪い草付き、濡れ濡れのルンゼで気が抜けない。人がここでよく死ぬ理由がよくわかる。とにかく遅々として進まない。

16:00烏帽子の頭(1p懸垂)

・南稜の終了点あたりより笹道。、にiii級程度のぼろぼろの岩30~40m。

17:30iii級の岩終了点。奥暗になる。風が強まる。ビバークか!

・先行している亮介パーティと定時半毎に交信しながらルートの説明を受ける。ナイフエッジを越え、笹道へ。

19:00国境稜線

~19:30

20:30谷川岳肩の小屋

4NOV 05:00起床

~6:00出発

8:00T, S着。この日入山の山内パーティとは、交信できず。

・亮介パーティと別れ一路帰宅。

感想・入山前に衛立の頭-国境稜線間のルートの情報がほとんどなく、予想より時間がかかった。

・東亜は本チャン初体験、野田も1年生、2人ともギャグをかましながら黙々とついてきたが、結構シビアであった。後にOBのお叱りを受けることになる。

・一度はビバークを覚悟、国境稜線の登山道に出たときの満天の星には感動した。高校時代の
清 かな夢が叶ったと東亜と2人で顔を見合わせる。

④「木製」は、製造原価ゼロ。

14DEC'96-15DEC'96
(2+0)



L. 伊藤 (初) 原田 (前) 野田 (1) 中島 (1) 田中 (1)

14DEC・2:30 松本発

3:30 坂巻温泉着

~4:00

⑥6:30 上高地着

9:00 白沢1600m付近。新人合宿を思い出す。

・本流右岸ぞいを行くが、雪崩斜面あり、また2~3雪崩そうなルンゼを横切る。

11:30 1960m付近。微かに残るトレースは夏道ぞいだが、さらに右岸をつめる。

12:45 やはり左岸へ移り、夏道のトラバース地点へ。そこから最短のコルへ向かう。

13:10 コル。J. P (ジャンクションピーク) へ向かうか迷うが、みんなバテ気味なのでここにT. S.

15DEC・4:50 起床

○6:30 T. S 発

・薄くクラストした斜面に手こずりながら急斜面を登る。

8:45 J. P 着

9:20 J. P よりしばらく下り2300m付近にて引き返す。遠く霞沢を眺める。

10:00 J. P

11:15 T. S のコル。伊那ワンにあう。

12:15 下山開始

13:00 1600m付近

? 上高地

? 坂巻温泉

感想・やはり少人数でのラッセルはえらい。冬合宿の偵察山行だったが、徳本-J. P 間くらいしか見ることができなかった。終日快晴で気持ち良かった。下山後、財布を落として落ち込んでいた田中は、和で、親父ギャグをかましていた。

⑦「正しい楽しさ」にニだめらなければ、
何でも楽しめる。

八ヶ岳 赤岳登山

12/18

Lo 花谷, 平松

※当初は 12/17~19(2+1)で 赤岳主稜と阿称地比根^予に行く予定だったが、
簡単な地蔵尾根を登る。

平松 = 美濃戸 - 赤岳鉱泉 - 行者小屋 - 稜線赤岳石室
4:00 A6:30, S7:30 S8:45 S10:00 12:50

天候悪化の為往路下山

赤岳鉱泉 - 美濃戸 = 平松
A 14:30, S 15:30 A 16:30

感想

晴天が比較的高い八ヶ岳で、本気で荒れさるやいなやこれを実感した。同じ
日に中山尾根を取り付く人が死んだ。と白寒がする山行だった。

八ヶ岳 西面 12/15~16 L山内, 妻谷 川井
(1+1)

12/14 松本=美濃戸 11:00PMごろ 車の中で寝る

12/15 美濃戸 7:00 ○ ----- 8:10 赤岳鉱泉 ○ ----- 11:00 赤岳主稜 とりつき ○

8時ごろ ----- 14:30 赤岳頂上 15:00 庵 ----- 地蔵尾根 ----- 行者小屋 16:00

----- 柳川 南沢 ----- 美濃戸 17:00 ○

赤岳主稜は快晴が北アルプスのほろこ平のみ入、快適であった。岩登りを
簡単だった。カメラを忘れていると何も撮れなかった。川井のカメラが
こわくわくして残念だった。行者小屋~美濃戸の南沢は道が悪い。妻
谷は虫歯でのたうちまわっていた。

1996年

7°冬合宿報告

期間: 11/30 ~ 12/5 (3+3)

場所: 杓子尾根 ~ 杓子岳 ~ 白馬岳 ~ 小蓮華尾根

はじめに

杓子尾根 ~ 白馬岳の予定で行った合宿でしたが
荒天、大雪にたたられ、胸~頭上のラッセルに終始した
あげく麓倉台地で引き返すという不本意な結果とな
りました。一年生にとっては初めての冬山。2年生以上4人
という中ぞとれだけのことが伝えられたのが疑問です
が、冬合宿のステップとしては大きな意味があったと思
います。

ほらだ りょうすけ

⑧ ゴキウ嫌は!!!

メンバー

4年生 山内哲文(理4, エssen, SL)
伊藤勇太郎(農3, 装備)

2年生 原田亮介(理2, CL)
花谷泰広(教2, 合計, 渉外, 記録, 医療)

1年生 麦谷永郷(人丈1)
川井純(理1)
野田聡(理2)
平松由布子(教1)
中島辰哉(農1)
川村朋子(理1)
田中基樹(理1)

※計画書作成後に 2年の堺崇行, 小林茂幹の不参加
が決まり係もこれによって変更があった。前者は退会, 後
者は休会。

④ あなたのいま手にしているものが、あなたのほしいもの。

PL冬合宿 行動記録

by: 花谷

1/30

- 4:00 起床
- 4:35 Box S
- 5:35 二股 A ~ 7:35 N
- 10:50 猿倉 A ~ 11:10 N
- 12:10 鍾温泉方面分岐 A ~ 12:15 N
- 13:30 T.S1(1450m付近) A

1/31

- 4:30 起床
- 7:45 T.S1 N
- 10:30 T.S2 (1600m付近) A ~ 11:00 N
- 12:55 最高到達点 (1700m付近) A ~ 13:30 N
- 13:55 T.S2 A

1/2

- 5:00 起床
 - 7:30 T.S2 N
 - 10:35 鍾温泉と大雪渓方面の分岐 T
 - 11:05 猿倉 A ~ 11:30 N
 - 15:30 二股 A
- (約10分遅れて原田・平松さん、約20分遅れて伊藤・川村さん下山)

個人的感想

雪が多く、天気も悪かった。頭・土手でのスリップは初めてだった。近くまで何回も雪崩の音で「大変怖い」と思った。真冬の雪が多すぎて滑感(合宿)だった。(積雪/夜の気温が-10℃以下だった)

⑩ 楽しいことなんて探していたけれど間に合わない
楽しむ能力がほしい。

反省と感想

伊藤 雪太郎

反省

- ・初日、林道を歩き、1本走った時に、車の中に1ポライトを忘れたことに気付く。ヒリに行くことになった。すぐ合流することになったが、うっかりミスだった。
- ・朝の高層天気図をとるのに寝坊してしまった。
- ・トレーニング不足のため、30kgをC23とA2が痛くなるように感じた。

感想

- ・今年の合宿はとうとう1年生は悪天候に~~丸~~かきこわれていた。次の冬合宿は予備を多めにとったので何とか成功させたい。
- ・1年生は今回の合宿で学んだ事(う、ま、生、活、技、術)は次にはかまら。アイゼン・Fix 通過、長期山行の体力等が次の冬合宿でためされることになる。
- ・2年生は3年生の扱った分の負担を今後負うことになるが、次の冬合宿でさらに成長してほしい。

プロの反省と感想

山内 哲文

反省 前日まで学業と寮祭で忙がしく体力的なトレーニングが不足していた。日々のトレーニングをせすにいきなり山へ入る事はしない方がよい。アイゼン岩トシはまあまあやったが、それを發揮できる場面はなかった。今回は悪天のためドカ雪が降って全行程の1/4の工ほどラッセルして終わってしまった。双子尾根にとりつかなかったのは残念だが、判断は間違っていないかったと思う。白馬周辺の山域に特有な、ドカ雪、湿雪、ラッセルを経験できたのでまあいいだろう。1年生の生活技術は、はじめの冬山だけあってミスが効かった。ガチャの連結、雪の上に物を落とさない、アイゼンのスピードUP等は上級生かものつと注意して習慣にしておこう。

感想 今回のラッセルは深かった。自分が今まで経験したラッセルの中で、ベスト3にはいるほどだ。ベスト3発表

- Best 1. 十石小屋山行(93.12月) 初めてのラッセル、小屋までとトリップが
2. 今回の合宿(96.12月) 狭谷台地で脱退。に脱退。
3. 戸隠P1尾根(96.2月) ラッセル前に前原がいたにも関わらず、100m(100m)くらいかき進まない所があった。



70冬合宿'96

反省・感想

70冬合宿を終えて、印象に残っている事というのは「悪天の中をラッセル」という事ぐらいでしょうか。初日から最終日まで、黙々とラッセルするというのが良くもなれない、悪くもないといった感じの山行だったと思います。

今回は、3日間だけしか冬山の中で生活できなかったわけですが、夏山との違いが少しだけでも分かったように思います。

夏山でもよく雨が、冬山では、ちよとした気の中、34℃、判断ミスが致命的なものになるように感じました。地図上では目と鼻の先の距離でも、まる1日かかったり、個装を1つ失くすだけでも、それが凍傷につながりかねないということも知りました。

冬山では少しでも自分に甘くするのは、イヤイ、ということも思い知りました。

新人合宿の時から何度も言われてきた事を、もう1度確認し、冬合宿にもなりたいと思います。



1年 川井

70L冬合宿 個人的感想と反省 中島辰哉

[感想]. 一言で言えば、あ、というまに過ぎたということに尽きる。準備は直前からで、装備も出発前日までそろわなかったりして慌だいいものであった。あまたふた準備し、出発に至った。今回の合宿は、冬山初体験の合宿であった。合宿前の冬山のイメージは、ラッセルに次ぐラッセル、さらにラッセルとこじんラッセルという極めて体力のいるイメージであったので少々不安が今回の合宿に対して、あった。実際の白馬は、聞きしに劣らず豪雪地帯だと身を持って感じた。白馬岳ところか、小日向のコルにすら達せなかったが、ラッセルしている時の全身を使う感じを思い出すと、充実した合宿だったと思う。雪は今までは、わくわくするものであった。しかし今回の大雪の中で体を動かし、もがいた後の今、雪の恐ろしさを改めて考える。テントの中や行動中に聞いた雪崩の豪音は、心を凍りつかせた。雪だけでなく寒さにも驚かされた。ガクにこびりついた雪はいつの間にか凍りつき、はらても容易に取れないし、朝起きると、出してあったスパッツはコチコチであった。 シユラフから

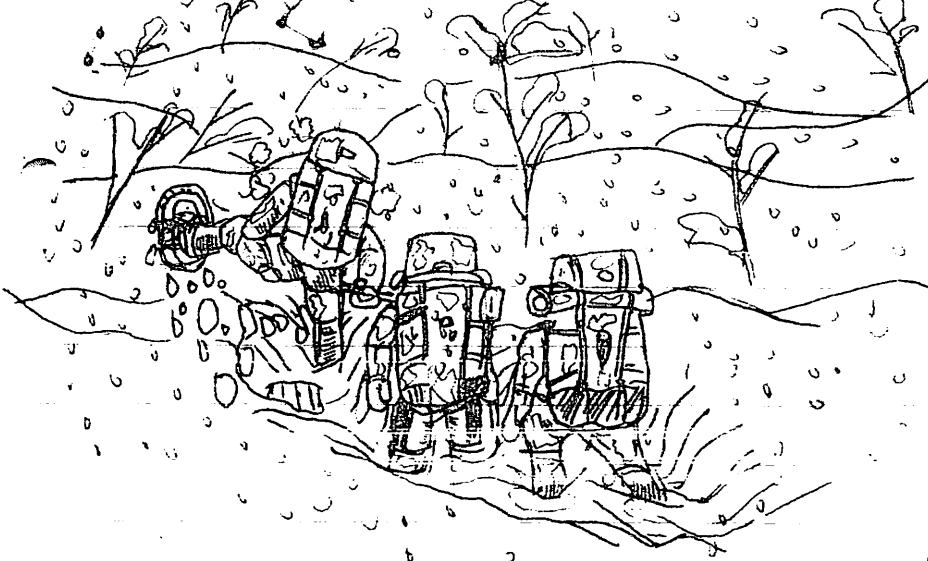
雪の上を歩いてゆくというのは面白いものだ。今まで雪のふくらみが広がっていただけの雪面を指がラッセルした後、そこにはちゃんと道ができていく。ラッセルは確かに疲れたが、そういう点が自分を楽しませてくれた。

⑫ ミミのそばに、いせなやつがいるとしたら



きつと、そいつは、いせなやつなんだ。ただ、それだけ。 SHINSHU UNIV.

[反省] 冬山では、テキパキと行動せねば 時間を無駄にするだけである。特に生活面において反省すべき点がある。まず、行動が遅いこと。起床、食事、テント撤収、出発という流れをもっとスムーズにやらねばならない。現に、1日目も2日目も僕のいたテントの撤収が一番遅かったのは、僕の遅さによるものではないかと思っている。先輩達は気付くと荷をまとめて、テントを出ていく、という感じで、この点、考え直さねばならない。山に関して、一年生であるが、今までの合宿や山行を経てきた今、言われてきたことは既に出来る筈なのであって、いつまでも上からの指図を待っていてはいけなないと思う。エッセンなど、そのいい例で、順序や要領はもうわかっている筈であるから、先輩の言うことは正しい、というのが当然である。あと、天気図を書く際、ラジオの周波数が合わなかったり、その埋め合わせのPM10:00の天気図を取り忘れた事が反省としてある。今回の合宿の天気は悪かったので、天気図は重要であった。



感想

平松 由布子

待ちに待っていた冬山の合宿は、あっという間に終わっていた。
 夏は暑いから夏は歩いてラッセルで道を通り歩いていく。そのための
 靴で整った道を見て、お前の存在を思った。とてこの合宿で
 私は、自分の前を歩く人の足元を見て歩いたことがおれは、遠くになった
 のを見上げる。そしてまたまたマイペースでいく。一歩が絶対つな
 げられやらずと、気がついてそのように歩く。その前が暗が、マジで大きき。
 しかし道をかなりの間、暗かせていた。体を冷やせているのは
 悪い。荷が軽くなれば肉體は、よくなるが。荷を持つ方が優先
 なのだ。自分で近い距離での努力は、して行くつもりです。

反省

合宿一週間前の。B会の前日に準備あり、一旦お宝の風邪を
 せきかきでるくらいで、週をまたいで準備の日に準備が、ワークになった。
 装備代で金額が多く、かきかいてバイトに入り、忙しかけてまじの状況にな
 った。私は、合宿には思いついて行って良かったと思、ていまでもその後
 うつしてしまったかもしれない人は、申しあげない。しかし履かて履か、トレーニング
 したから、体調を考えると難しい。課題になる。
 オプションが大きくて、しつこくはして、行動に移、って、時間をとて
 いた。
 2日目の夜、示汁の中で、体温計の先を割ってしまったこと。ホー、としていて、気
 の休むところから、大勢には至っていないが、非常事態だった。迷惑をかけた人は悪かった。
 整理のつかない感じで、冬山において、至るにいた点は、多々あったらうが
 足元を踏むために、本気で、知識を増やした。
 あと、個々の、行動は、能く、心算、に、目的、を、た、し、て、

反省と感想

野田 飛

今回の合宿で 自らの行動を振り返った時 全般的にリビウがつかない
ことが目についた。命を置いてでもスパスパと動かない。反省をした。etc.
また T-S の設置。撒収の時に 自らの仕事もやらせればよかった。など
130 ありの。言われたことばかりではない。全く何を学ぶていたか。と思
われることが多々あった。冬合宿では 自らの働き、動かしようにしたい。

また 体力も全々なりなかった。ラッセルというものは、思っていたよりも厳しく
長くつづきすぎた。冬山では バッテたから終りのあけで 体力はよくはなって
上げても悪いことはない。と新しく感じた。

あと T-S では トングも 紛失してしまった。雪の上に置いてあったのだから 知ら
ない間に 雪の中... 何回か 探して 見つけて 見つけた。見つけられなかった
おにやうだ。たのに、もう二度とするもんが。

感想としては 今回の合宿は いま 不完全燃焼だった。悪天が原因だ
たので 反省はないけど もっし上にも 行ってみたかった。残念ではありましたが
何だかんだで おもしろい合宿でした。



(13) ただし、お天気のせい、気分が変わるのは許します、
だって、(まくらもお天気の一部分な)から。



71冬合宿反省と感想

川村 朋子

久々の合宿参加で楽しみにしていた反面、初めての冬そして体力の無さを
気にして臨んだ71冬でした。反省からのへると、やはり体力不足
でした。これは体が怠っていたということでしょうか。自分なりに少し
はやったつもりでしたが、全く足りなかったということです。次に、ケガ
の再発ですが、体は完治しているものと思っていたので、突然のこと
のように思われました。そして、中風邪を山でひいてしまったこと
についてですが、体が寝方が悪かったのか(?)と思っていますが、どう
なんでしょうか。最後に、まだまだ精神面が甘いということです。
自分で克服するゆはないですか……。書くだけの反省にならない様に
肝に銘じておきます。感想は、行程のほんの少ししかこなせ
ませんでした。夏とは違、た山に入って生活できたことは楽し
かったです。夏と冬ではあまりにも景色が異なりすぎて驚かされ
ました。ラッセルはつらかったです。自分では10m程進
んだつもりだったのに、1mしか進んでいなかった時はさみしかったです。

ん—

実際は

平冬合宿 反省と感想

▶ 反省

- 雪上に 個装を置いてしまいそのまま、空しくした事。
- 合宿前にレポートなどの課題があり、体調管理がてきせず直前にカゼをひいてしまい、そのまま山に行ってしまった事。
- ワカンのピモが短かすぎた事。

▶ 感想

今回、初めての冬山ということで、「こんなところで寒くないのか。凍傷にならないか」と様々なことにおいて不安であった。幸い、不安は不安で終わったが……。

山行は、オールラッセルだった。大雪でラッセルもたのしかったが、それとは、アセツンをはいて、校線を歩きたかった。

田中基樹

②⑨ なぜか、川には長く続く、よな海がある。

反省... フォ冬での一番の反省は、ラッセルに酔いしれ、後ろもぶりがえらぶ一人とはしてしまふことである。そのことは何度か注意されたにも関わらずやってしまった。ラッセルは、きもちがいい。胸までうまる雪を押し分け、掻き分け、もかくもかくもかく。自分の前には道はない。切り開かぬべならぬ。だから、もかくもかくもかく。なんたか人生おたいなもかくもかくもかく。もかき続けろ生きていかなくてはいいやない。僕は。だから止めることはできなかつた。もかくもかくもかく。

感想... 敗退するとは、なんとも言えぬ味の悪... ものた。特に今回ののは、最初から天候が悪くなるのはわかっていたかやる気なしで行くのは、よくない。はまーしやーぬーなとあきらめるのはよく、コ/ポー、ツリッとおきらめるほうがまた気持ちがいいもーん。

表谷

㉑ こゆが「いんた」ろくか?
こゆで「いん」!

㉒ 明日は今日よりいん日に決まってる!

装備の反省と感想

伊藤 隆太郎

反省

○ フレ冬。装備は1月後にならぬで(週間以上前より)まことに用意しなげなばなりなりのことはわかってはいたが、馬前に完全には用意できなかった。さらに準備の日遅れて来たため、すでにパッキングが終了した状態で、確認することなく出発となつてしまった。よ、て教ある反省点を致す結果となつてしまふが、致命的なミスはなかつたと思う。

また、事前に用意するにあたり、個人山行を終えた後の装備のたぐひがなまぬけていながら、たため、必要以上に時間がかかり足りないものもあつた。

以下に細かい反省点をあげる。

- ダンロップテントの外張を1個余分に買ってきてしまった。
- 食料係とまぢんと話し合ふ、ていながら、ため、出発前日、急ぎ2テントだけのエッセルになつてしまった。やはり、冬は各テントごとにエッセルを準備すべきであつた。
- テントの張りつな、もの干し等、足りない所があつた。
- 赤テープが少なすぎた。
- 竹ポールが壊れすぎた。もち運ぶのしかたも工夫がほしかつた。(今後はちもつけ、肩がひきづつても、て歩くようにしたい)
- 雪グラシも各テント2つづつ買ってゆくべきであつた。
- ヤカンが小さすぎて使いものにならなかつた。
- 雪入れ用に銀食器が欲しい。
- MSRの調子が1つ悪かつた。
- 市販のテント袋では冬には小さすぎて入れるに時間がかかつた。

報告

- ホワイトガソリン 2.5L = $\frac{100 \text{ ml}}{\text{人} \cdot \text{日}}$ (100ml x 12人 x 20日 = 2500ml)
- メタ 11.5本 = $\frac{3 \text{ 本}}{\text{テント} \cdot \text{日}}$ (27本 x 20日 x 3日(ホヤ・ヤ・ヤ) = 18.5本)
- 雪製・雪グラシ・シモジ・ハシ冬 | 個づつ粉袋。
- ロック
- 1.5本 = 0.5 $\frac{\text{本}}{\text{テント} \cdot \text{日}}$

③③ ニンろおさなく気がねなく。

後先考らないで、いまを楽しめ。

-九冬五-

Essenの反省

山内 哲文

- 反省
- 3つのテントのうち2つでエッセンをしたがエッセンをしない残りのテントの人が寒い思いをした。また3人のテントでの朝のエッセンは忙かしくなって効率が悪い。準備段階での装備係の栗太郎との連絡が不足していた。
 - ラーメンにわかめ等燻乾野菜を入れたらよかった。
 - カレー、シチュー等の量は人数分の2倍程持っていた方がよい。
 - 「準備の日」を1日とる事ができなかったのので、出発前日までにパミ缶づくり、レーショニ昼飯づくりをやっておいて、あとはぱっきんがするだけにしておいた。出発前日の準備は早くできてよかった。

感想
今回はじめて合宿のエッセン係になった。私は味にはうるさい方だが、みんなに「こ、これはうまいぜ!!はぐはぐはぐ。」と言わせるような食事にできなくて残念であった。

④④ ただし、人生は基本的に危ないものである。

いつ、どこで、どうなるかわからない。

だから、いま、ここに生きています。

1996年度冬合宿 行動記録

日時：1996年12月23日（月）～1997年1月2日（木）

行程：霞沢岳西尾根～霞沢岳～大滝山～蝶ヶ岳～常念岳～大天井岳～燕岳～中房温泉

メンバー：<c1, 医療>山内哲文（4） <s1, 装備>伊藤勇太郎（4）
<会計渉外> 原田亮介（2） <エッセン> 花谷泰広（2）
<気象> 川井純（1） <記録> 中島辰哉（1）
平松由布子（1） 麦谷水郷（1） 野田聡（1） 松本穂高

～記録～

（1日目）：12/23（月） 霞沢岳西尾根より入山
雪のち晴れ 4:30 BOX起床/5:30発～6:30 坂巻温泉/7:40発～8:40
釜トン出口で一本～9:25 建設省建物裏の西尾根取付き～15:05 テン場
着（1900m付近）

「冬合宿1日目。やっぱり寒い。坂巻温泉まで行く途中、車の内から見た天候にびびってしまった。天気が悪そうだとは思っていたけど、実際に目の当たりにして腰が引けてしまった。博多さん、茂さん、堺さん、途中まで藤江さんに見送ってもらい出発。プレ冬で一度冬山を経験したお陰で気持ちに少し余裕ができていた。今日は何といっても山内さんのキスリング姿がステキ だった。さすがの山内さんも少々つらそうだった。みんな夏合宿ぐらいの荷物を持って頑張っていた。長い合宿ですが、みんな最後まで頑張りましょう。」（川井）

（2日目）：12/24（火） 霞沢岳頂上近くのT. Sへ
快晴 4:30起床/7:20発～14:40ナイフリッジのfix箇所～17:30T. S着
（2550～2600m付近）

「今日は天気が抜群によく、森林限界を出ると、乗鞍、焼岳、穂高の山々は白い雪をまとい、輝いていた。今日は霞沢岳頂上まで行けると思っていたが、荷物の重さのためか、夕暮れで日没後にやっとテン場についた。テン場は稜線を整地してやっと張った。fixが出たが結構危ない所だったと思う。ここは日没前でテン場も決まっていなかったため、少々焦っていた。fixの出る所で段箱と竹ポールを置いて来た。今日は

クリスマスイブだが、下界で一人寂しい思いをするより、山にいた方が絶対良い。シュークリームもフォアローゼス(?)もそして穂高さんからのプレゼントも得られたから。U太郎さんがクラッカーを持っていたのには驚いた。

～ラッセルについて想ふこと～

思い荷物の時は、ラッセルはほっとするものだ。1人目は荷を捨てていくのであまり深くもぐらない。ラクチンだ。2人目は深くもぐる。2人目が実は大変。重い荷物にあえいで、ラッセルの番になった時は心底嬉しくなる。でもこれは重～い荷物の時だけ。プレ冬の際は、ラッセルは大変そのものだった。(後記:ラッセルはトップはガンガンやるので疲れる筈。この時は手を抜いていたのだった。)」 (中島)

(3日目): 12/25 (水) 霞沢岳

強風、ガス 7:30起床、9:04 fix回収隊(原田、伊藤)発、本体はT. Sで待機
～9:20 回収隊、回収場所到着～10:05 回収隊T. S着～10:53 T. S発～
11:30 霞沢岳頂上着～11:40 fix隊発～13:00 本隊T. S (K2手前の2590m
コル)着～13:30 fix隊発～14:40 fix隊引き返す～15:10 fix隊T. S着

「今日は寒い。風が強くてマユ毛が凍って痛かった。風で体がふられ、荷物が重いのですぐこけてしまった。fix通過時に雪ピ(漢字がわからん)を踏みぬいて落ち、fixで止まった。体が逆さまになってザックを落としそうになった。恐ろしかった。あっけなく落ちてしまった。これからは十分気をつけなくては。あと体の疲れがとれない。荷は軽いはずなのに体がついてこない。何でだ～」 (野田)

「FIX隊:風強く、悲惨。K2の先のFIXは間違った尾根にはった模様。視界が悪くルートファインディングミス。苦勞したのに・・・。」 (はらだりょうすけ)

(4日目): 12/26 (木) テント移動せず、FIX隊(間違っはった所の回収と、新たなfixを張る)とデポ隊(午後、天気回復したので)がでる。

ガスのち晴れ 5:00 起床～本隊一時待機～7:55 fix隊T. S発～11:30

デポ隊発～13:00 すぎfix隊帰天～14:20 デポ隊帰天

<fix隊(伊藤、花谷)記録>

7:55T. S発～K2付近間違えたfix回収(8:45終了)～K1直下まで工作(5ピッチ)～13:00すぎ 帰天

<デポ隊(山内、原田、川井、野田、麦谷)記録>

11:30 T. S 発~12:40 デポ地 (K1からの下りの2510m地) 着 / 13:30 発~

14:20 T. S 着

「終始快晴、強風。素晴らしい展望にみんな雄たけびを上げる。サル=アルパインクラブ (SAC) になりつつある。」 (記: りょうすけ)

(5日目): 12/27 (金) ジャンクションピークへ

快晴 5:00起床/発~8:10 K1ピーク~8:25 デポ地着 / 9:00 fix隊発~
9:35 本隊発、fix (3ピッチ) 通過~10:25 山内さんfix回収中落ち、fixで
止まる~10:50 fix隊とともに一本 (2400m~2361mへ続く尾根の分岐にて)
11:35 fix通過~15:05 ジャンクションピーク T. S 着

「今日はとってもよか天気。雲一つなく最高一。k1, k2でのfixを通過しデポ地へ、そこから雪崩斜面を再びfixで通過するが、山内さんがfix回収中に滑落した。20mほど落ちてfixで止まったが、そのとき山内さんは前を歩いていた僕に、「麦谷ー。」と叫んでいたらしいが、その声も聞こえず、山内さんの姿も見えない僕は、fixを終了して山内さんに「山内さんどうぞー。」とひたすら叫んでいた。穂高さんが助けに行き、戻ってきた山内さんは僕に少しむっとしたみたいだが僕はそんなこと知らなんだ。その後もう一度fixを通過しラッセルに突入するがなかなかよかペース。3時頃にはピークに着き霞沢岳も小さくなって、けっこう今日は進んだなあと思う。燕に近づいてきた。(でもまだまだ)。個人的には大切な大切な大切な雪崩ひもを落としてしまい、死ぬほどブルーだったけど、みんなはよい一日だったのではなからうか。

p. s. ぼくは、がさつな性格。しゃーねーな。U子さん、僕は取り返しの着かないことをしてしまいました。煮るなり、焼くなりどうとでもしてください。まめめしく生きる。」 (麦谷)

(6日目): 12/28 (土) 徳本峠を越える。

雪 5:00 起床 / 7:30 発~10:30 徳本峠~14:50 T. S (2250m付近) 着

「今までの5日間と今日も徳本までは、雪の中でもかいていたら、キョリをかせぎ日程がすぎたというカンジだった。今日徳本からは、落ちついた樹林帯に入ってひたすら純粋なラッセルで歩けた。これから予備日を使って、行程は先に長いみたいだが、と

にかく黙ってこなしていきたい。今日は肩がすごく痛かった。足をダメにしないように
気をつけなきゃあ。」 (平松)

(7日目) : 12 / 29 (日) 槍見台を経て、大滝山手前のコルへ
快晴 5:00起床 / 7:05発 ~ 8:32 槍見台 ~ 14:00 T. S (大滝山手前のコ
ル、2457m) 着 ~ 14:30 ラッセル隊 (伊藤、原田、中島、野田) 発 ~ 15:15
ラッセル隊帰天

「ラッセル、ラッセル、ラッセル、ラッセル、ラッセル、ラッセル、ラッセル・・・」
(はらだ りょうすけ)

(8日目) : 12 / 30 (月) 大滝山 ~ 蝶ヶ岳 ~ 常念岳手前のコル
快晴 5:00 起床 / 7:00 発 ~ 7:45 大滝山ピーク / 8:05 発 ~ 11:15 蝶ヶ岳ピ
ーク ~ 12:15 蝶ヶ槍 ~ 14:30 常念手前のコル (2460m) T. S 着

「今日も、ごっつええ天気。大滝山の登りは手強しと思われたが、1ピッチもかからずに
登れた。ラッセルから開放され、ペースアップ。予定の蝶を越え、常念直下のコルま
でつく。千葉工業大学と社会人パーティもテン場にてにぎやか。間近に見えた穂高連
峰は、とてもまぶしくてえがったえがった。」 (麦谷)

(9日目) : 12 / 31 (火) : 大晦日 常念岳 ~ 大天荘
快晴 5:00 起床 / 7:00 発 ~ 9:00 常念岳山頂 / 9:25 発 ~ 10:25 常念乗越
~ 13:15 東天井岳 ~ 14:45 大天荘冬期小屋着 晴れ

「今日はよく歩けた。大天荘にたどり着けたことは素晴らしい。東天井の登りは問題であ
った。

西の雲にうそぶく 槍穂高
東の雲にうそぶく あずみの

はよかった。この一年のしめくり、おおみそかにふさわしい一日だった。明日は晴れ
るといいね。」 (YAMAUCHI 哲文)

(10日目) : 1 / 1 (水) . 元旦 大天井岳 ~ 燕岳 ~ 中房温泉
晴れ 5:00 起床 / 7:00 発 ~ 7:10 大天井岳ピーク ~ fix通過 ~ 9:00 喜

作レリーフ～10:48 大下りの頭～11:20 蛙岩～12:10 燕山荘～12:45 燕岳
～13:25 燕山荘/13:40 発～14:10 合戦小屋 曇り～16:15 中房温泉

「元旦の朝は風が強かった。大天井の下りは、強風で体が振られ、その上アイゼンを引っ掛けそうで、常に滑落の危険が伴い非常に恐かった。蛙岩の冬ルートは内部のトンネルをくぐるのだが、ザックをおろさねば通れなかった。燕山荘の冬期小屋は、本館が営業していたため閉鎖。中房温泉までは思ったより早く着いた。ここでは少々問題があった。」
(中島)

(11日目) : 1/2 (木) 宮城へ
曇りのち雪 6:00 起床/7:40 発～10:50 宮城ゲート

下山パワー炸裂。15kmの林道は所々滑りやすかった。ゲートに着くと雪が激しく降り出してきた。この日以降冬型が強まり、危なかった。

★行動記録 — 松本 穂高 —

12月28日 徳本峠南のコルで本隊と別れ、単独で下山

コル 9:50〇～黒沢出合 11:00〇～小梨平 12:17〇～坂巻温泉 14:40〇

コルから樹木の密生した谷筋を下ると、すぐに夏道におつかる。夏道はそこからしばらく南方向へトラバースした後に、山腹斜面をジグザグについているはずだが、トレースがなく不明瞭。そこで一つ南の小尾根上を、シリセードを使いながら下る。尾根が終わったところで、谷筋に沿っている夏道に出る。ここからは赤テープが豊富についているので、悩むことなく進む。しかし北側から合流してくる谷を横断するときには、雪崩に対して注意が必要である。

トレースがなかったので、だいたいひざまでくらいのラッセルになった。登りだったらかなり苦しいだろう。徳本に出てからは、人がいっぱいいた。鉄骨むき出しの作業橋になっていた河童橋を過ぎ、坂巻温泉に下山。

冬合宿 を 終えて

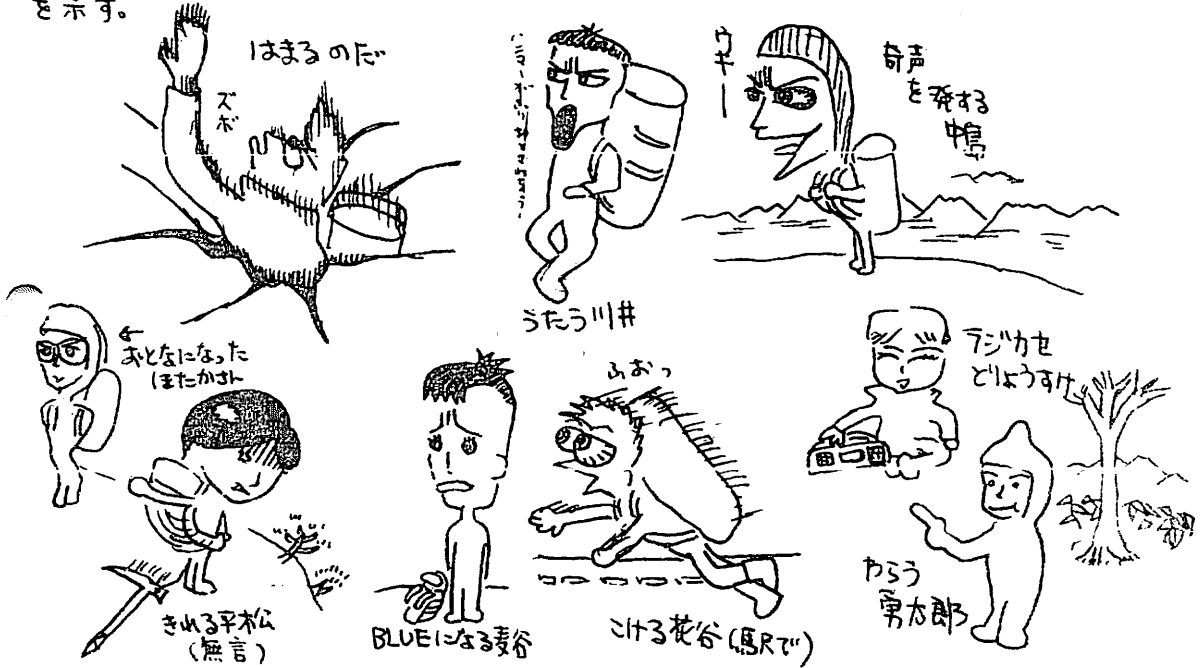
山内 哲文

奇跡的な晴天に恵まれて、10日間1日も沈殿する事なく、霞沢～燕まで完全トレースできた。それだけに得るものは大きかった。各々の技術面でも向上が見られた。特に、体力、ラッセル技術、生活技術においては、急成長をとげた。また、部員の人間性(性格)も少しみえた。(例…麦谷はまめまめしくない)とにかく今回の合宿で得た物を認識し役立てていくようにしよう。進路を決めるのはこれからの自分自身である。我々の踏んできたトレースは、真実へとつづくのか、それとも破滅へと向かっていくのか。

冬合宿の感想

山内 哲文

ひたすら歩き続けた10日間だった。1日1日がとても充実していた。キスリコクを腰で持ちあげた時の肩の解放感と横目で見るモニコクがSunシャインかたまらなくよかった。以下に印象に残った場面を示す。



冬合宿の反省

山内 哲文

まず計画段階では、重い荷物を背負っての進むスピードのおとさを考えなかった。40kg以上の歩荷ラッセシでは50分歩いて高層差100m登れる位であった。徳本時まで2日の予定だったが実際5日かかった。また押し冬後から歩荷訓練をはじめたせい、大幅にバテる者はなかった。体力的にゆとりを持てるようになる、山を楽しむ事ができるので日々のHL-コンクは必要である。

合宿中での一番の反省点は装備(天気回せ小やかん)をなくした事である。テント設営、徹夜、エトセン等の生活技術は合宿を通じて身に付いた。上級生が少ない(4人+穂高さん)事による問題はFIXかいる場合に深刻になった。2年生がいないので2年生の花谷よりどうぶつか、従来の3年生の役割もこなす事になった。今の2年生は来年最高学年になるので、いい経馬舎になったと思う。

冬合宿 個人の反省と感想

伊藤 勇太郎

まず、GWの報告書を見ていただければわかると思うが、私は今年の冬合宿は年間計画で目標をさだめて、気合いのみ、たものにしてしようと思っていた。偵察山行もして、必要ならデボもしようと考えていた。しかし、実際にこの計画が決定したのはプロ冬後、偵察も前の週というありさまだ。また、ルートも独創性に富んだルートとはいえないが、この計画段階でのすべての遅れがまず、我々リーダー部員の大きなミス・反省点だと思ふ。しかし、決めたかぎりには、このミスをできるだけのきづなりようには思いました。だからこそ、この計画は絶対成功させなければという心構えでこの合宿にのぞめました。

結果は大成功。今年度は新人合宿をのぞけばさんざんな合宿ばかりでしたが、むくわれた思いがしました。しかし、この成功に酔っているひまはない。あくまでコンスタントなんだという事を各自認識し、2月からの春の縦走にむかえ、日々の努力を続けてほしい。

さて、私自身この合宿をふりかえってみると、リーダー部員として4年生としての役割をきちんと果たせたかという問いに正直Yesとはいえない。千年になる、こいまさ反省もないのだが、一番大きな反省は2、3、4日目のFix隊で荷が重すぎる、これでは行動できないと、泣き事を言った事だろう。また3日目でまた、た尻根に3PほどFixしてしまつた事(張た直後気付いた)4組に1時間ほど間違つたルートを先行してしまつた事である。リーダー会で、荷が重いと言つた事についてさんざん批判されたが、やはり上級生といふとも、途分なものは一切も、てゆくイキではなかつたと反省している。

その後の行程で大天井からの下りで、あの林きょうの中、1年生をFixなしで歩かせるのは慎重さが欠けていると思われたが、それ以外でのリーダー会の判断ミスはなかつたと思う。また、私自身も、霞沢を越え、比較的楽な行動になったが、だからと言って緊張感が欠ける事なく、最後まで行動できたと思う。

今後、学年が抜けた分を2年生のぶんばりで乗り切つてほしい。これができるかを今の1、2年生はも、ているとこの合宿を終つて思ひました。

- ③④ 隣の芝生がきれいに見えるのは、正常。
他人がうらやましく見えるのは、正常。
人よりまなはずだと思つてゐるが、ヒョーキ。

1/1 の感想 伊藤秀太郎

夜中、寝ていると、小屋の中だからなにか必しようにおどろかす。
しかも、隣りでゆんまに大イビキをかいているYがうきすくて、千度
も目を覚ます。とうとう、た ~~ま~~ えかぬて、土間にマットをしき、こご
なから新年を迎える。

バカヤロー

強風の中、大天井のピークでFixが揺られるのを待っていると、M
とHが 初日出るバックに幸せそうに ツーショットしている。

ザクザク

（） 五山荘、冬期小屋閉鎖。中に入りたければ営業中の本館へ行って金
払えばいい？ 何のためにここは冬期小屋があるんだあ。

Fuckin You

無事、H温泉までたどりつき、ぬし食、といい気分で風呂がリフト
に戻れば、おやじが跡をつけてきて、場所代払えたこと。

Unbelievable!

怒りの多い年になりそう。ついでに友情、恋、金運とあまり恵ま
れなさそうな気がしました。

★感想 木公本 総高

やっぱり年末は北アに限る！ということで、突然参加させてもらうこと
になった。なるべくおとなしくしていようと心が掛けていたが、どうして
も目に余る時には声を発してしまった。しかし、かねがね聞いていたほど
には、現役はむちゃくちゃなことをしているわけではないな、というのが
率直な印象である。二日目、fix通過を待ちながら、青というより紺色の空
を背景に、夕日に赤く染まった冬枯れのダケカンバを見た。暗闇が迫りつ
つある不安をいっとき忘れ、冬山の醍醐味を味わった。

★保険について

今回の山行に際して、傷害保険に加入した。何かの参考になればと考え、
簡単にその内容を示します。学士山岳会の他には何の団体にも所属してい
ない場合に、よりよい手段があるのを知っている方がおりましたら、お知
らせ願います。

保険期間: 2週間、死亡・後遺傷害: 2千万、入院日額: 1500円、通院日額:
千円、救援者費用: 300万、遭難捜索費用: 200万、合計保険料5016円、

保険会社: 大成火災海上保険

冬合宿反省、感想

〈反省〉

今回は少し冬の時は山に対する心持がいつもより前向きになり、
ため、自分には「一生懸命やった」という。しかし、予想以上に
持久力の低下による「おぼ」や「ぼろ」が目立ち、重荷は予想以上に
負担が大きい。減らした減らした箇所は軽くなった。1年ほどはかかった。
しかし、後半は「おぼ」や「ぼろ」が（午前より午後、3日目より7日目等）
元気にたいていくにつれ前回の1週間ほど減ってなくなっていった。
次に自分の立場だ。今回は3年生の「おぼ」や「ぼろ」が。その中で3年生の
本率に対する仕事を考えて入山できた。これは、その場所でも、
中には「おぼ」や「ぼろ」が出てくる。そういう場面がある。これは、今年2年
1年生に最も近く、そして仲間が「おぼ」や「ぼろ」の立場を離れ、1年
生には「おぼ」や「ぼろ」の多い仕事、そういう場面がある。これは、不慣
れな「おぼ」や「ぼろ」が行き過ぎた仕事だと思われる。これは、おぼや
ぼろだ。これは、おぼやぼろの「おぼ」や「ぼろ」の多い仕事。これは、おぼや
ぼろの多い仕事（おぼやぼろの多い仕事）の多い仕事。これは、おぼや
ぼろの多い仕事。

〈感想〉

今回は、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。
これは、おぼやぼろの多い仕事。これは、おぼやぼろの多い仕事。

最後に言う。俺は山男だ。

山男の山男は、おぼやぼろの多い仕事。

冬合宿の反省と感想 ほかいろいろ

1997年元旦、大天井岳の山頂で振り返った御稜は今年一年何かよいことがありそうな予感を引き起こした。合宿の成功は一年のスタートとしては申し分ない。

今合宿はオレにとって学ぶ所の多い合宿だった。自分が先頭に立つとはどういふ事なのか、人を引張って山に登ることがどういふ事なのか等、新しい発見や再確認することの連続だった。そして改めて2年生あるいは上級生になればその精神力、体力の重要性を思い知った。

4年2人、2年2人、1年5人で望んだこの合宿。はいち自分はどういふ立場をとるべきかつかめずに終わった。上げ少ないといふことで1年生は「ああしろしろ」ばかり言っていたような気がする。2年生はんだからもと1年生に近い位置にいてよかったのではと思ふ。そのへんのめりはりが下手くそでした。

その他個人的な技術ミス、準備不足、うっかりハマなど細かい反省は山ほどあるので今後その教訓を生かしたい。

中房からの林道歩きの中で、ケンタロウさんにもうたラジカをFでゴ機嫌に歩いていると「今年の抱負は向にしようか」といふ思いが湧いてくるのだが思ふ浮かぶのは「帰ったらお水と喰うぞ」といふようなことばかり、結局の時できたのがこれ。

「魂に自由を 腹には食物を」
心は 腹には 金

今年はこのまゝいっく!!!

⑧ 「こんなはずはない。」 たって?

あつた「な、こけが」
ん

反省と感想

1年川井

冬山はやはり厳しく、今回の合宿は、今までの山岳会の合宿の中で、肉体的にも精神的にも最もハードなものでした。合宿中、『帰りたい』と思ったことも何度かありました。“冬山は、夏山とは全然違う”ということを実感することができました。それでもやはり冬山はすばらしく、僕にとっては充実した合宿だったと思います。

今回の合宿の反省としてまず合宿前の体調管理が挙げられます。フレ冬の後にはいたカセも合宿1週間前には完治し体調もかなり良い方でした。しかし合宿3日前に撤夜をしたり、前日も寝たのが夜中の1時を過ぎていたり、自分から体調を崩すようなことをしてしまいました。お陰で合宿初日、2日は体がたろく、正直つかれました。この点で、心構えが足りなかったように思います。

生活面においてはこの1年間教えてもらってきたことがたくさんと身に付いてきたなと感じました。スピード面ではまた問題がありますが、合宿の後半になるにしたがって、朝の出発が早くなつた様に、これからは、場数をふんで良くしていきたいです。

行動中は、また自分勝手な面とかが目立ちました。少し、隊全体を見ることもできました。ほんの少しですけど、これから上級生になるに当たって、もっと全体を見る目を養ってほしいですね。

自分の課題でもあった個装の管理ですが、何をどこに入れてたか良いのか、または置いたか良いのか、がたんだん分かってきたので、今回の合宿では物を失くしたり、どこにしまったのか忘れるといったことはありませんでした。この点では自分をほめてあげたいな。

あと、最大の反省点は、“成功させる”という意識が薄かったこと。途中までは成功するとは思っていませんでした。上級生の方も、『成功しないんないないか』と感じた時もあったようですが、僕が目からはそんなふうには感じられなかったし、どんなに状況が悪くても、成功させることを前提に、話を進めていたように思います。弱気になっていた自分が恥かしくなっていました。来年の川井純君、見なすように。

それと、個装はちゃんと使える状態か、本がちゃんと読んでいるかなど、こまめにチェックするべきでした。成功して、ヨカッタ——！！

行動に関して。まずラッセルをしっかりとできなかった。ある時はだらだら長くやって後ろがつかえてしまい、またある時はすぐ荷を下ろし空身でどんどん行ってしまってセカンドの人の足が沈み、全くラッセルの意味がなかった。亮介さんの「だらだらやりすぎだぞ。息の上がないラッセルなんてないんだ。」という一言によって、自分の弛んだ気持ちが浮き彫りになった。自分の体力に自信がなかった。それを隠そうとして、長くやっていればいだろうと考えていた。しかし、結果的に全体がつかえ回転が遅くなった。これではいけない。体力がなくても、もっともっとがむしゃらにやるべきであった。体力をつけることはもちろん必要。でも、前に進むぞ、とことんラッセルしてやる、という気持ちも持っていなければならぬと心から思う。

次にアイゼン歩行について。夏合宿で源次郎谷を下降中、2、3度転んだ事を肝に銘じ歩いたが、最も慎重さが求められるべき常念岳の下りで転倒してしまった。あの時は下りで足が少々疲れ、クラストした雪に爪をひっかけてしまった。下降に疲れたら、先を急ぐことより落ち着いて下る事の方が大切だと思った。我々が通過した後常念で一人亡くなった事を考えると、死が非常に真近にあると感じさせられる。常念の転倒以後、アイゼンを履いて歩く時は常に神経を張りつめていた。それでもなお爪が引っかけたし、ぐらっとした時があった。冬山の滑落は即、死につながる。何でも無い所でも、油断してはいけない。

生活について。全体を通して、なぜか神経がピリピリしていたように思う。ラッセル中は体力のなさに対して、エッセン中は手早く要領よくやらなければと一人でいらいらしていた。少しは、というかある程度は神経を張りつめねば冬山は登れないと思うが、気を抜いてもいい時までいらいらしっぱなしだったように思う。

最後に天気図セットについて。5日目に僕がテントから団装を出して、天気図セットは雪に埋もれ分からなくなってしまった。何を出したかを確認し、しっかり団装分けすべきだった。

感想

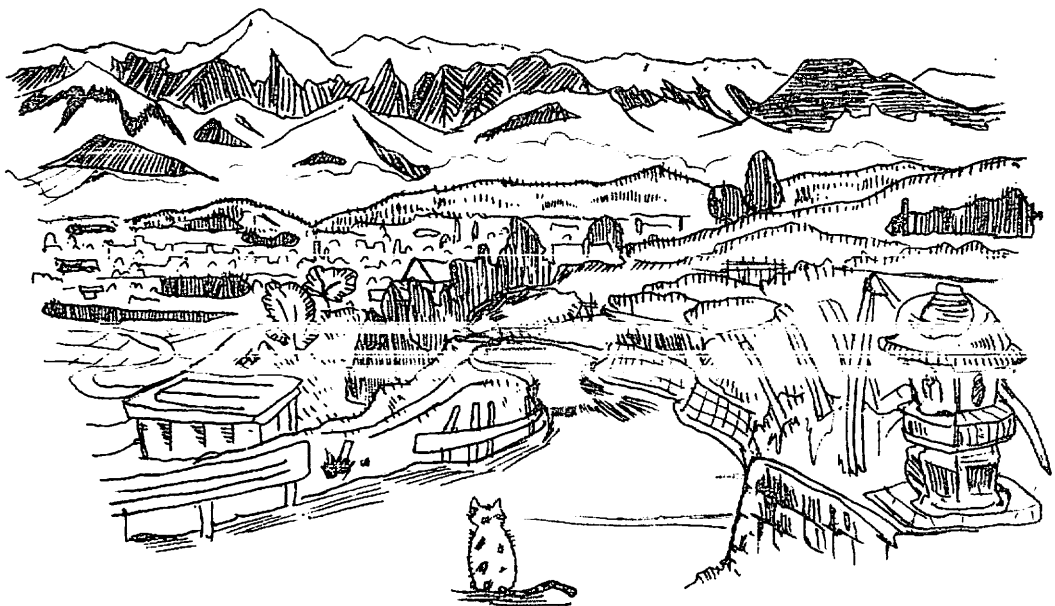
合宿1週間前の偵察山行で、徳本峠からジャンクションピークを経て少し下った所まで行ったが、そこから見た霞沢岳は余りにも大きく遠かった。そして、これは予備日をフルに使うか、途中下山になるかも…と弱気になってしまった。現実の霞沢はやはり大きく抜けるのに3、4日かかったが、後半は天気もよく最高だった。最も身の危険を感じたのが、大天井岳の下りだ。アイゼン下降だけでも大変なのに、体が降られるほどの強風には閉口した。全体を通して本当にあっという間だったが、どうであろうと体の臭いが全てを物語っていた。しかし、今回は天気に恵まれたからいいものの、次の冬合宿はどうなるかわからない。これで油断せず、もっとシビアでハードなコンディションがあるとい

うことを忘れてはいけない。ただ、天気によらずやっぱり冬山は危険だなとしみじみ思う。

作文

山に登り始めたわけ。僕が山に興味を持ったのは高一の時、新田次郎の『孤高の人』を読んでからだ。ひとまず軽登山靴を買って、一番近い丹沢の大山という山に登った。それまで山に登ったことがないわけではなかったが、小説に触発された後に登った感じは、なんとも言えず新鮮だった。それから、丹沢ばかり登っていた。高校には山岳部がなかったので、友達と行ったり一人で行ったりした。高校時代の中では高二の時、一番盛んに登っていたように思う。富士山、尾瀬、大菩薩、八ヶ岳など、今にしてみれば気軽に登れるだろうが、その頃は山に向かう度にわくわくしていた。今でもいい思い出である。でも僕が山に惹かれたのは、特に他にのめり込むものがなかったからとも言える。ピアノにもそろそろ飽きていた。テニスもそう活発にはやらなかった。足もそう速いわけでもなく、泳ぎも得意ではない。たまたまそういう時期に『孤高の人』を読んだだけの話かも知れない。

夢について。夢は、諦めず追い求め続ければ必ず実現するという。夢とは何だろう。実現不可能と思われるものからその気になればできそうなものまである。例えば、将来宇宙に行きたいということでも、それにむかって努力していけば実現するかも知れない。そう考えると妙にわくわくしてしまう。夢はそもそも実現可能なものであり、叶わないのはただ自分が諦めているだけであると思う。そして、自分が別に80、90の老人でもなく20そこそこであり、これから色々なことが出来るという事を考えると、更にわくわくしてくる。そう思っていると今この時間が非常に貴重に思われてくるのが不思議だ。やりたいことを夢とするならば、結構沢山ある。そのうちのどれを実現させ、どれを諦めていくのだろうか。



合宿の反省と感想 野田 聡

今日の合宿の大きな反省の1つはやはり雪庇の踏み抜えです。先行した人が大丈夫だったからといって100%そのトレースが安全だとは言えず注意するに越したことはないことを学んだ。今、思い出し油断して歩いていったというが吹雪に気を払っていったというが、やはり雪庇に関してはあまり注意していません。たっというのか正しいところだと思ふ。本当に上級生の尻Fixに感謝。感謝の一文字です。

荷の重さが重かったのには閉口してしまつた。疲れが全くとれず前半は重荷との戦いだった。下山の時に感じた体力のなさをさらに増幅させて感じられた。山の中で僕は全く無敵だった。下山の時の反省であったけじめについては今回は多少の改善できたのではと少しではあるが収穫を感じている。メリハリがっいり気持ちよか〜と感じ!

感想は合宿が途中で終わった。これに2分、むしろこの充実感を味わった気がする。後半の好天つづきも最高だ。でも1つだけ残念なのはリバウンド。誰れか僕の胃を止めて胃はパンパンしているのに食欲はおさまらず、吐く寸前まで。食いつかけ何時〜何時か食事の時間たがわからない。1日中食っている状態。体重が〜体重が〜

だけじゃそんなことはじ〜でもいくらいおもしろい合宿でした。

④ ずばりよかった。あなたの選択はずばりよかった。

正しかったかどうかは知らないけれど、でもよかった。

反省... 私は何をやるにしても雑であった。もとからのいいかげんだとこそあったが、
信大に入り寮に入った際に“なんとでもしよう”精神を学び、~~全寮~~が助長された。自
分の精神に下るもの、基盤となるもの、しっかりしていれば、そんなことはしな
いのだが、どうも私は人に流されやすい性格らしい。三木清の人間論10では、習慣
は技術であることに對し、流行は技術的な能動性が欠けていると論じている。要するに
自分には技術なもの、自分の習慣は多く、他に流される受動的な流行しかないのであ
る。~~どうやらそれは~~自分でもうどうも気付いていた。だからこれじゃいかんと察も出た。しかし、
これじゃいかんといって逃げたわけでは、いいかげんは精神を根本から見直すことを
怠っていたのだろう。だから、やはり知らぬ間にほそびた。そうしたいと今回の
合宿に形となって現われた。エッセイの際の不注意さ、バツマンの際のダラダラ
ほそびるだけのいいかげんさなどは、~~上り~~合宿のせいとそれら
の根元となるものから、今後はもうそんなことはしない。何せ今年の抱負は
まめしく居るから。これからの私を見てほしい。

感想... 成功することかできてたいへんうれしいのだが、なぜかしくりてはいる。それ
はなぜだかよくわからない。どうも筆舌ににくい。だから感想といわれてもまたどうも、

表谷

— 係列 —

気象 川井

合宿前、行く山域のラジオ第2の周波数を調べておくべきで
した。今回は下界と周波数が同じだから良かったのですが、別
の山域に行く時は調べておきましょう。時間の節約にもなるし、

ラジオセットは団装ではなく、今回途中からそうしたように、気象係
の個装にすてきてお。特に冬山では、粉失する可能性もずつと
なくなるし、すぐ取り出せます。

天気図1冊は、今回1人1人が持っていました。団装のか1冊
と予備にもう1冊持、て行くだけだと十分ではないでしょうか。1冊
にまとめて書いた方が、流れとかよく分かるし。

天気図を書く人ですか、新人合宿でなければ、特に指定す
る必要もないと思います。どのテントの人が書くのかを決めるた
いで十分だと思いました。

冬合宿装備報告 担当 伊藤勇太郎

報告) 消耗品 ホワイトガソリン70 (70÷10÷9.5人=0.73ℓ/人日)
メタ38.5本 (38.5÷10÷2テント=1.9本/テント日)
ローソク5.5本 (5.5÷10÷2テント=0.28本/テント日)
マンドリン1 赤旗15 アカテープ30片 電池0 テープスリング
数本 竹ベグ4 食器4 プス板1
紛失物 AM短波ラジオ1 天気図用紙ノート1 ドライバー1
破損、故障 テント張り綱4もげる テントポールゴム1切れる シーバー1故障
MSR1故障

問題点、改善点)

1、今後参考としてほしいことについて、

個装のピナが多かったのが、団装のピナが多くなりすぎた。ヤカンが不必要。ガソリンを当初0.1ℓ/人日と下が、0.8~0.9ℓ/人日が適量だった。プス板は、ベニヤ一枚では弱すぎる。マンドリンが多い。雪ブラシ・スポンジは各テント一つ。雪手袋・飯食器は不必要。雪袋を今後コンバイン袋とする。MSRの漏斗は金属性は凍って詰まるので、プラスチック製を使用する。

2、今後必要と思われることについて、

メインロープは緊急用としても2本は持って行きたい。冬でも、岩・雪・氷に対応できるアンカーを持ってゆきたい。ローソクは、沈殿も考え最低0.5本/日・テントは必要。

3、これから更なる改良すべき点について、

スコップ・天気図用紙ノートを個装にし、パイル・テルモスを上級生の個装とした。6mmロープをなくし、団装として9mmもって行くことにした。天気図用紙ノートは、団装として2冊もあれば充分。スコップは整地・雪掻き・ルート工作等雪崩対策以外にも毎日利用するので、個装にしても差しつかえないと思う。シーバーの故障は、吹雪の中、ヤッケの外側につけたまま行動したためと予想されるので、今後はヤッケの内側に入れて使用してほしい。テントのポールの中のゴムが凍って設営・撤収に非常に時間がかかってしまった。ゴムの予備を持って行く、ゴムにアマニ油を塗る等対策もあるが、今後冬期のテントは、エスパースを使用したほうが良いと思う。対風性、設営の容易さ、内張りの織造ポールが凍らないので、人致や居住性の問題はあっても、こちらのほうが良いと思った次第です。

以上

医療の反省

山内 哲文

- ・従来より、包帯が「セ」、三角布を多めに持っていった。(便利なかった)
- ・消費は湿布1枚だけであった。
- ・医療リストを配るのにおそくなった。反省。

冬合宿 イッセン 反省、感想

花后 泰広 Date

<合宿後のミーティング(1/2)で報告した点>

1) ◦ X米、ジュースそれぞれ1袋ずつ使用できなくなった。
(袋が破れた)

↳ 今回の合宿では予備食を梱包する際、従来よりなダンボール箱ではなく、農協で売っているコンビニ袋を使用した。合宿中はダンバコとは違った意味でパッキングしやすいと好評だった。(ダンバコは何か考えずにパッキングでき、こちらの方が良いという意見があるが.....)

今後もしダンバコを廃止し、全ての食料をこれに変更すればコンビニ袋等を利用する場合は若干の工夫が要求されるであろう。

2) ◦ Xメニューは好評だった。イッセン係りとして一番うれしい事だ。

3) ◦ 調味料はそれぞれ個別に packing する方がよい。(合宿中7分おの7分が聞いておいた。)

<反省>

多少少し軽量化できた。前日はバタバタと準備に時間をかけられた原因は、ポツカン等は前日までに準備しておいた方がよいと思う。ダンバコを廃止する準備高在中。その代用はコンビニ袋の注目の点であるが、ただコンビニ袋にわかるだけでは中身が破損するおそれあり少し考慮しなくてはならないだろう。

<感想>

皆が Xメニューに満足してくれた事はうれしい。元日に用意した赤飯とどうにか良かった。来年はさらに X を加えた計画を考えているので、来年の冬合宿のイッセンは X にやらせていた方がいい。

報告 会計 渉外

1891879円

会計

収入	・7L冬がりのくらし	40825円	
	・9人分の合宿費	135000円	185825 - 1774:
	・松本穂高の参加費	10000円	= 5982円 (実際)
		<u>185825円</u>	
支出	・交通費合計	14790円	
	・整備費合計	55822円	
	・エッセイ合計	109231円	
		<u>179843円</u>	
			不明金 1236円 (おまけシートが出た はいのE37。1200円の税 価格にひびく)

傾向としては金がかかり過ぎである。原因としてはエッセイが
 多かったこと、またE37ではT-1の修理代が思ったより高か
 かったことなどが上げられる。

渉外

アプロ-キも帰路もスムーズにいった。ただ燕山荘(利用しなが
 たにしても)の冬期小屋が締まっていたのは驚いた。燕山荘は正月営
 業しているので普段の冬期小屋は締まっていたのだ。やはり冬山の冬期
 小屋の自費は自分でせめて事前に電話で確認をよくしておくた
 方がいい。

あと中房温泉のあやじが要注意人物であることと知らなければこと
 は大きな反省である。

中止になった山行

① 常念岳 早松他1名

雨天の為、許可おりず

② 明星山P6南壁 L.山内他8名

雨天の為、登はん不可

③ 北沢沢 五竜岳 - 鹿島槍 伊藤

④ ねえ、季節の変わる瞬間が感じられる？

最近 星を見た？

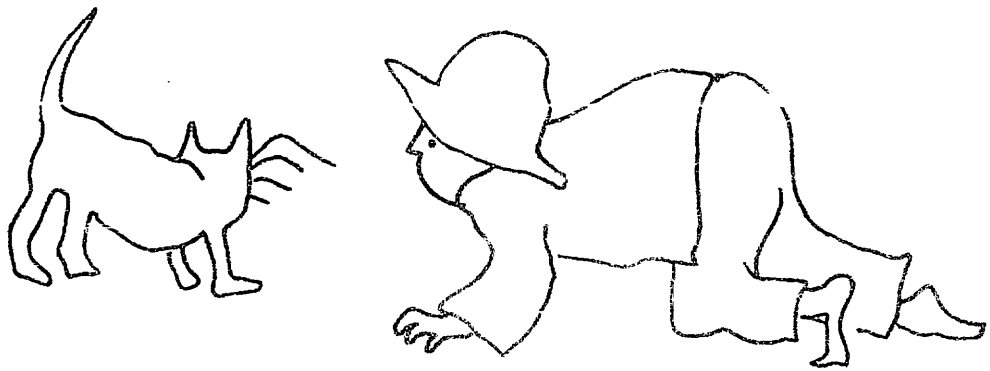
風のおいさを感じることはある？

もし、そうだとしたら、

そびがどんなに問題をかかえているか全然問題ない。

①~④ 伊藤守

「ニッポンの法則 100」より



愛はニニ。そニ。あそニ。そして。どニにてモ。

表紙 麦谷
編集 川村
発行・印刷 松本

1997. 1. 30 (木)